

第8回 Clinical & Basic Research Forum

日時：平成30年7月21日（土） 17:00~19:00

会場：ホテルザマンハッタン 2階 「ルーナ」

千葉県千葉市美浜区ひび野2-10-1 TEL: 043-275-1111

PROGRAM

* 会終了後、情報交換会をご用意しております

メーカーセッション

「糖尿病治療の実臨床におけるカナリグリプチンの有用性とDPP4/SGLT2配合剤の今後の期待」

千葉大学大学院医学研究院 細胞治療内科学 石田 晶子 先生

症例報告

「H4-PDGFRβ融合遺伝子を呈する非定型慢性骨髄性白血病(aCML)に対しイマチニブが奏功した一例」

千葉大学医学部附属病院 血液内科

千葉大学大学院医学研究院 細胞治療内科学 山崎 美貴 先生

研究報告

「糖代謝調節における2型自然リンパ球の新たな機能」

千葉大学大学院医学研究院 細胞治療内科学 藤本 真徳 先生

特別講演

座長： 千葉大学大学院医学研究院 細胞治療内科学 教授 横手 幸太郎 先生

『臨床医から基礎研究の世界へ—劇的な科学の進歩に思いをはせる』

— 血液内科の臨床と造血幹細胞研究を通して —

千葉大学大学院医学研究院細胞分子医学

東京大学医科学研究所幹細胞治療研究センター幹細胞分子医学 教授 岩間 厚志 先生

【 岩間 厚志 先生 ご略歴・ご紹介文】

岩間厚志博士は昭和62年に新潟大学医学部を卒業し、5年半の血液内科の臨床を経験したのち、基礎医学研究を開始した。血液内科の臨床の期間には、染色体転座遺伝子が次々に同定され、造血腫瘍の分子生物学的研究が大いに進展するとともに、サイトカインが実臨床に用いられ始めた時期であり、基礎研究の成果を実感することとなる。このような経験が基礎研究への転身の一つの動機となった。研究においては、造血幹細胞を制御するシグナル研究や分化の転写制御で業績を上げたのち、いち早く幹細胞におけるエピジェネティック制御機構の研究を開始した。次世代型シーケンサー解析の進歩を取り入れながら、幹細胞と造血腫瘍におけるエピジェネティクスの先駆的研究を推進している。2014年には新学術領域研究「ステムセルエイジングから解明する疾患原理」を領域代表として立ち上げ、幹細胞老化のエピジェネティクス研究に挑戦している。

本会では、様々な科学の進歩に触発されながらどのように研究を進めてきたのか、ご自分の研究の足跡たどりながら、また今後を見据えながら御講演頂きます。

世話人(敬称略・施設氏名五十音順)

代表世話人

千葉大学 細胞治療内科学 横手幸太郎

千葉大学 代謝生理学

三木 隆司

世話人

国際医療福祉大学 中世古知昭

国際医療福祉大学

竹本 稔

千葉市立青葉病院

山本 恭平

千葉大学 血液内科 堺田恵美子

千葉大学 細胞治療内科学

小野 啓

千葉大学 分子病態解析学

田中 知明

千葉東病院 西村 元伸

千葉ろっさい病院

三村 正裕

東京女子医科大学八千代医療センター

橋本 尚武

東京都健康長寿医療センター 森 聖二郎

東邦大学医療センター-佐倉病院

龍野 一郎

成田赤十字病院

青墳 信之

事務局

千葉大学 細胞治療内科学 前澤 善朗